

報道関係各位

2024年11月20日
株式会社クロス・マーケティング

空き巣や強盗などの犯罪被害は「他人ごとではない」が6割 「大金を家に置かない」「玄関を開けない」など普段から意識

－ 防犯・セキュリティに関する調査（2024年）－

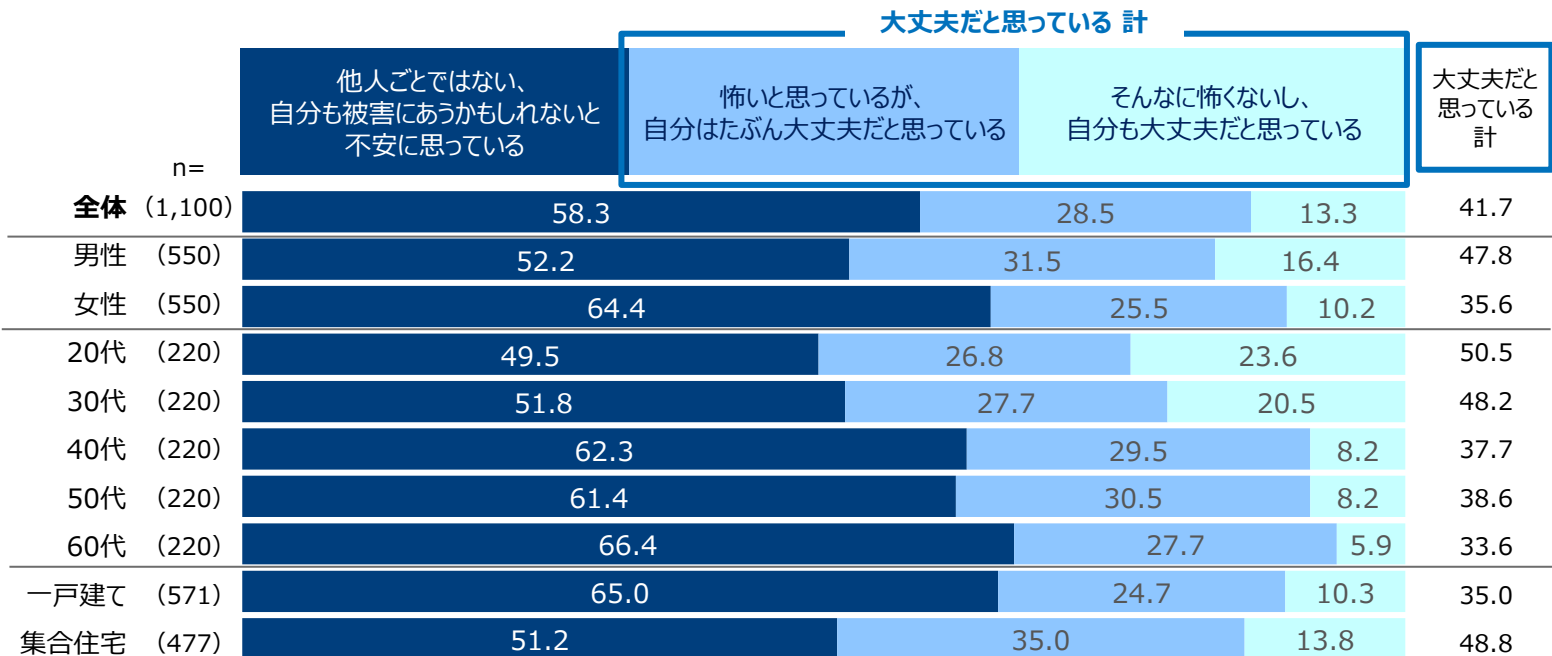
株式会社クロス・マーケティング（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：五十嵐 幹）は、全国20歳～69歳の男女を対象に「防犯・セキュリティに関する調査（2024年）」を実施しました。首都圏を中心に闇バイトによる強盗事件が相次いでいる中で、今回は「空き巣や強盗などの犯罪被害に対する意識」「防犯対策として実施したいもの／しているもの」「防犯対策として気を付けている／ついやってしまっていること」「空き巣・強盗などの犯罪被害や怖いと思った経験」について聴取しました。

◆調査結果の続きはこちらへ ⇒ <https://www.cross-m.co.jp/report/life/20241120security/>

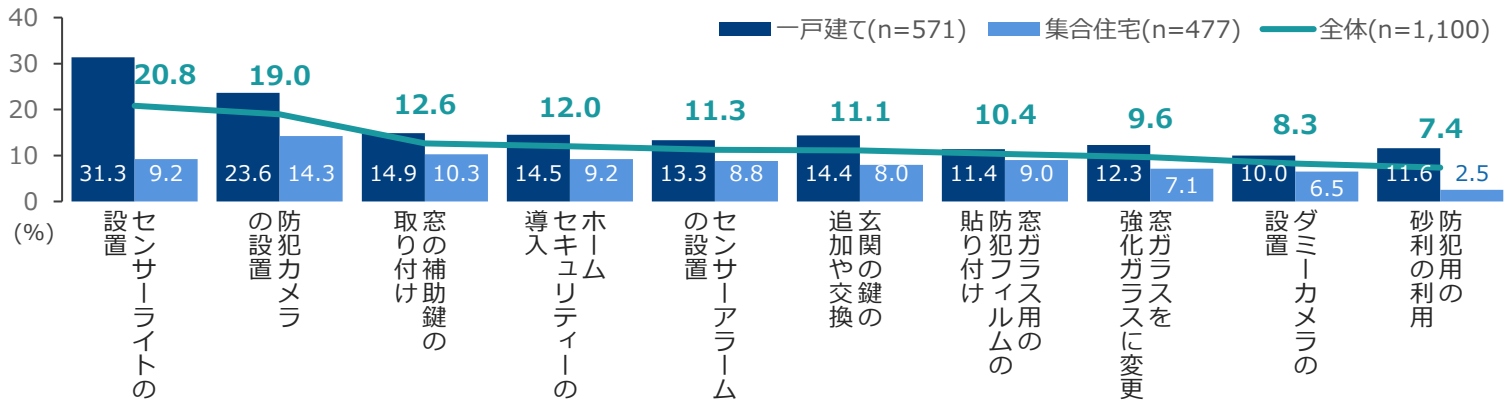
■ 調査結果

- ✓ 空き巣や強盗などへの不安は、「他人ごとではない、自分も被害にあうかもしれないと不安に思う」が58.3%。「他人ごとではない、自分も不安」は男性が52.2%、女性が64.4%で女性の方が高く、また年代別でみると40～60代で6割を超える。同様に住宅別では、戸建が65.0%、集合住宅が51.2%で戸建の方が犯罪被害への不安が高い。〈図1〉
- ✓ 防犯対策として実施したいものは「センサーライトの設置」「防犯カメラの設置」が上位にあがる。住宅別でみると、一戸建ては「センサーライトの設置」が31.3%で最も高く、「防犯カメラの設置」が23.6%で続く。集合住宅では「防犯カメラの設置」が1位だが1割台で、一戸建てよりも防犯対策への意識は低い。〈図2〉
- ✓ 気を付けていることは「大金を家に置かない」が33.4%でTOP、「玄関のチャイムがなくても玄関を開けない／居留守を使う」が30.4%、「在宅時でも玄関や人のいない部屋の窓には必ず鍵をかける」が27.3%で続く。犯罪被害への不安が高い50～60代で全体的に高い傾向。〈図3〉
- ✓ 空き巣・強盗などの犯罪被害の経験は、窓ガラスを割って侵入されるケースなどがあげられ、長期的な外出だけでなく、ちょっとした外出の際も気をつける必要があると感じている様子がうかがえた。〈図4〉

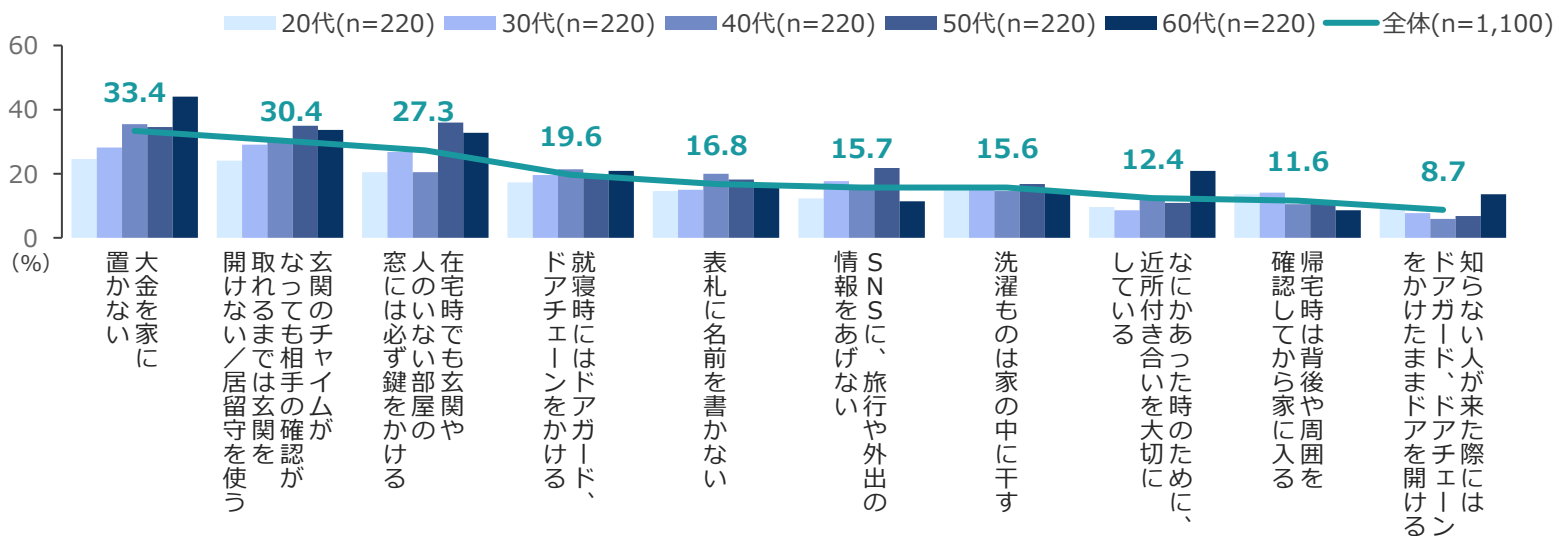
〈図1〉 空き巣や強盗などの犯罪被害に対する意識（単一回答）



<図2> 防犯対策として実施したいもの／しているもの (複数回答：上位10項目抜粋)



<図3> 防犯対策として、気をつけている／ついやってしまっていること (複数回答：上位10項目抜粋)



<図4> 空き巣・強盗などの犯罪被害や怖いと思った経験 (自由回答一部抜粋)

- ・ 親戚の家が空き巣と遭遇した経験を聞いたことがある。物的・人的被害は無かったものの、身近に被害がありそうだったことに驚いた。(男性20代)
- ・ 義理の祖母が過去2回ほど空き巣に入られた経験があるとのこと。身近に被害者がいると恐怖心もひとしおなので自分自身も気を付けないといけないと感じた。(男性30代)
- ・ 勝手口の窓ガラスが割られ、鍵を開けられた。たんすとかを開けられ、家が荒らされた。怖かった！空き巣被害にあった。(女性40代)
- ・ 以前住んでいた家で、表札に何か色々な記号を勝手に書かれた。空き巣に入られる可能性があるという聞いて怖くなり、即座に消したことがある。(男性40代)
- ・ 夕方から夜にかけて家を空けたときに空き巣に入られた。家の裏の網戸を燃やされ、窓を割られたが、格子が壊れて逆に入れなかったようで、偶然窓の近くに置きっぱなしにしていた通帳が入った中着のみ盗まれた。確信はないので言わなかったが、目の前の家の解体業者の方が外出などの行動を見ていたので、怪しいと思った。(女性40代)
- ・ ハイツ1階に住んでいた時、ベランダの扉を割って空き巣に入られた。私の家は荒らされて数千円取られただけでなく、隣の部屋にも入り、冷蔵庫の中の物、タンスの引き出し、部屋の中をめちゃくちゃにされていた。(女性50代)
- ・ 車の盗難にあったことがあり、いま流行りのCANインバーダーという犯行手口で狙われたら、対処の仕様がなくて困惑している。(男性50代)
- ・ 30年前、旅行から帰ると、かけて出たはずの玄関の鍵があいていた。引き出しを荒らされ、子どものお年玉が取られた。室内に靴跡があり恐怖を覚えた！その後すべての窓に鉄格子を取り付けた。(女性50代)
- ・ つい先週、今話題の闇バイト被害が、ご近所で発生した。犯人は水道局を装っていたようです。一か月くらい前に、私が留守の時に水道局から「下水道のチェックをしたいので連絡してほしい」と個人の名前と携帯の番号が書かれていた。水道局に問い合わせたら、そんな人はいないということだった。(女性50代)
- ・ 自分自身はまだ犯罪被害に遭ったことはないが、知り合いがまだ学生の頃に、アパート暮らしで鍵をかけずに外出したところ、不幸にも空き巣被害に遭い、現金を盗まれたそう。ちょっとした油断が多大な不幸を招き、その後の人生をも狂わせてしまいかねないので、これを他山の石として肝に銘じておきたい。(男性60代)

■ 調査項目

- 属性設問
- 空き巣や強盗などの犯罪被害に対する意識
- 防犯対策として実施したいもの／しているもの
- 防犯対策として気を付けている／ついやってしまっていること
- 空き巣・強盗などの犯罪被害や怖いと思った経験

◆クロス集計表のダウンロードはこちらへ ⇒ <https://www.cross-m.co.jp/report/life/20241120security/>

■ 調査概要

- 調査手法 : インターネットリサーチ (クロス・マーケティング セルフ型アンケートツール「QiQUMO」使用)
- 調査地域 : 全国47都道府県
- 調査対象 : 20～69歳の男女
- 調査期間 : 2024年11月15日 (金) ～16日 (土)
- 有効回答数 : 本調査1,100サンプル

※調査結果は、端数処理のため構成比が100%にならない場合があります

【会社概要】

- 会社名 : 株式会社クロス・マーケティング <http://www.cross-m.co.jp/>
- 所在地 : 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー24F
- 設立 : 2003年4月1日
- 代表者 : 代表取締役社長兼CEO 五十嵐 幹
- 事業内容 : マーケティングリサーチ事業、マーケティング・リサーチに関わるコンサルティング

◆本件に関する報道関係からのお問い合わせ先◆

広報担当 : マーケティング部 TEL : 03-6859-1192 FAX : 03-6859-2275
E-mail : pr-cm@cross-m.co.jp

«引用・転載時のクレジット表記のお願い»

本リリースの引用・転載時には、必ず当社クレジットを明記いただけますようお願い申し上げます。
<例> 「マーケティング・リサーチ会社のクロス・マーケティングが実施した調査によると・・・」